

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

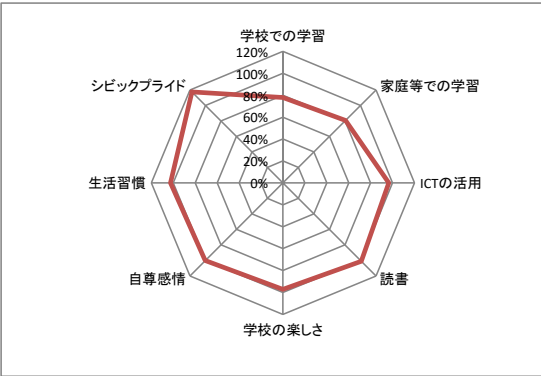
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均を上回っているが、「思考力、判断力、表現力等」に関わる問題の一部で、全国平均を上回るものがあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに捉え、要旨を把握する問題。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題。	
	努力が必要な問題	・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える問題。 ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全領域にわたって全国平均を上回っている。「数と式」領域では十分な力が付いているものの、「図形」や「データの活用」の領域の一部で、今後さらに力を付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題。	
	努力が必要な問題	・「図形」の証明問題や、「データの活用」の説明をする問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的には平均を上回っているが「聞くこと」、「書くこと」の領域において、一部全国平均を下回るものがあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題。 ・英文を読み、その概要を把握する問題。	
	努力が必要な問題	・学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を英語で書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「今住んでいる地域の行事に参加しているか」、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」との問いに対して、肯定的に回答した割合が全国平均を上回った。
・「授業で学んだことをほかの学習で生かしているか」との問いに対して、肯定的に回答した割合が低かった。
・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、端末や破損の可能性を考慮しながら、家庭学習で活用できるように検討していきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・基礎的、基本的な学力は身に付いているが、問題の領域や類型によって無回答率が高いものがある。朝自習や小テストの取組等を継続して行い、粘り強く課題に取り組む態度を育成する必要がある。
・自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫する生徒の割合が低く、授業の中で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を増やす必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・地域や社会をよくするために何をすべきか考える割合が高く、実際に地域の行事に参加する生徒の割合も全国平均と比較して高い。シビックプライドの醸成をめざした取組をより一層充実させていく。
・学校の授業時間以外での家庭学習で、「全くしない」と回答した割合が全国平均と比較して高い。家庭での学習習慣が身に付いていない生徒に対して、毎日取り組むことのできる課題を与える等して、学習習慣を身につけさせるとともに基礎学力の定着を図る。